

知的障がい者の就労場面における役割設定の効果

Effect of changing roles for a person with intellectual disability at work

○中鹿直樹・川村徹也・尾西洋平・望月 昭

○NAKASHIKA Naoki, KAWAMURA Tetsuya, ONISHI Youhei, MOCHIZUKI Akira.

立命館大学

Rtisumeikan University

Key words: 援助付き就労, 知的障がい, 役割

立命館大学では、障がい者の就労を支援する「学生ジョブコーチ (SJC)」の実践を継続している。障がい者が働くのを手助けするためにさまざまな援助設定の開発と検討を行ってきた (望月ほか, 2012; 中鹿, 2010)。

今回のケースは「周りの様子を気にしすぎて作業がおろそかになっている」という評価を受けている対象者に対して、職場での役割 (リーダー役と作業員役) を設定することにより、リーダーとしての行動やその場で求められる作業行動がどのように改善するのかについて検討した。

方法

対象者 障害者就労継続支援施設に属するAさんが対象であった。周囲のスタッフはAさんについて「作業スピードが遅い」「周囲の様子を気にかけすぎる」という評価をしていた。本研究がスタートする以前から、Aさんは職場での時間管理 (主に休憩の開始と終了の合図) を担当していた。

業務 ゴルフ練習場での作業 (使用されたボールの収集・洗浄・分類) が主な業務であった。特に室内で行われるボール洗浄・分類に関わる業務が本報告の対象場面であった。洗浄は、ボールを洗濯機で洗う作業、分類はボールを使用できるものと使用できないものに分類する作業であった。Aさんと一緒に2, 3名の障がい者 (他の作業員) が働いていた。

手続き Aさんに対してリーダー役と作業員役という2つの役割を設定し、日によってリーダー・作業員を変化させた。

リーダー役の日には、作業開始前にSJCがAさんに対して「今日はリーダー役をお願いします」と教示し、リーダーと書かれた名札を付けてもらった。他の作業員にも「今日は時間管理と援助はAさんがします」と伝えた。リーダーとして求められる行動は、一般の作業 (ボールの洗浄・分類) に加えて、30分ごとに入れる休憩の開始と終了を皆に伝えること、他の人が困っている時に助けてあげることの2つであった。

作業員役の日には、作業開始前にSJCがAさんに対して「今日は作業員をお願いします」と教示した。他の作業員には「今日は時間管理と援助は学生ジョブコーチが行います」と伝え、SJCが「時間管理」という名札を付け、Aさんは特定の名札を付けなかった。

リーダー・作業員として適切な行動にはフィードバックを行った。単位時間当たりの、ボールを分類した量 (kg/h)・洗濯機の運転状況や洗浄している他の作業員に注目する回数を計測した。後者の行動は、Aさんがこの場面において頻繁に示しているもので、周囲を気にする行動として記録した。

結果

役割を変化させるようになると、Aさんはその日の役割に応じた適切な行動を分化するようになった (図1)。またリーダー役の日には、他の作業員に対して「困ったときに手伝いをする」「洗濯機のスタートや終了についての指示をする」といった行動が見られた。

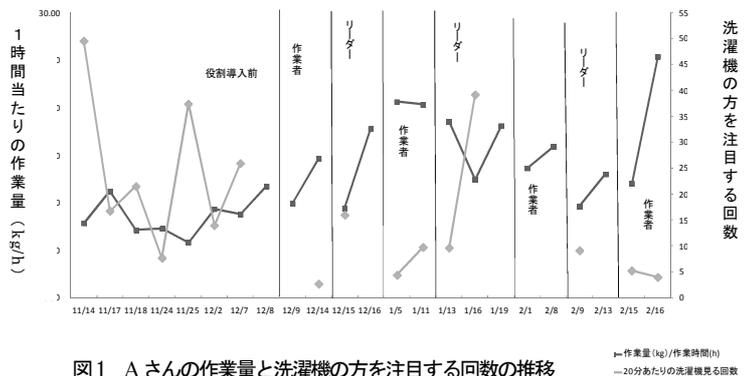


図1 Aさんの作業量と洗濯機の方を注目する回数の推移

考察

役割を与えられ、役割に応じた行動が周囲から認められることによって、Aさんの行動は改善していった。

これまでSJCでは、障がい者の就労を支援するために、物理的環境の援助設定 (治具の配置など)、人的環境の援助設定 (一定個数を仕上げた時にフィードバックを入れるなど) を行い、対象者のセルフ・マネジメントを支援してきた。今回のケースでは、物理的・人的ではない役割という設定も、「援助設定」 (望月ほか, 2012) として当事者の「できる」を拡大し、表現するための環境要因として働きうることを示された。

文献

望月 昭ほか (2012) 「学生ジョブコーチ」による障がい者就労支援の役割, 対人援助学会第4回大会発表, 中鹿直樹 (2010) 対人援助学の実践と教育の場としての「学生ジョブコーチ」の可能性, 望月昭他 (編著) 「対人援助学の可能性」 (福村出版) 第1章 p32-58.